

## 「天に上げられる」

2016年01月30日

**ルカによる福音書 24章 50節～53節。** イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された。そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り、絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた。

復活した主イエスは弟子たちに目に見える体でご自分をお示しになった。そして、心の目を開いて、聖書を悟るようにと語られた。メシア（キリスト）は十字架の苦難と死を受けるが、死者の中から復活する。この主イエスの十字架と復活による罪の赦しを得させる悔い改めが、あらゆる国の人々に宣べ伝えられる。あなた方はエルサレムから始まる宣教の証人となる。神が約束された聖霊があなた方に送られる。高い所からの力に覆われるまで都エルサレムに留まっていなさい。聖霊降臨を待って、福音宣教への使命を託された。当時の教会員たちへのメッセージである。

復活した主イエスは弟子たちをベタニアの辺りまで連れて行った。ベタニアは主イエスが愛したマルタ、マリアが住んでいた、行き慣れた懐かしい村である。そこで、主イエスは手を上げて祝福された。そして、祝福しながら、弟子たちから離れ、天に上げられた。彼らは天に帰られた主イエスを伏し拝んだ。そして、大喜びでエルサレムに帰り、神殿の境内で、「主イエスは復活し、生きておられる」と語り、神を賛美し続けた。

ルカ福音書の著者は、マルコ福音書を継承して、復活した主イエスは弟子たちに復活の事実を現された後、天に上げられたと書いている。「天」とは何であろうか。もちろん「空」ではない。天とは、地上を超えた超越、永遠を意味する宗教的概念である。超越や永遠などがあるのかという議論に決着がついている訳ではない。古来から、激しく議論されてきた。近代においては、理性に基づく「神なき世界」が主張され、超越や永遠を問うことは少なくなっているかも知れない。しかし、聖書は「超越、永遠」に対する深い憧れ、強い信仰を持っている。聖書の民は超越した神との関わりの中で、人間、歴史、自然を捉えている。それが、聖書を生み出した根源的な力であった。

旧約聖書のコヘレトの言葉 3章 11節に「神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。それでもなお、神のなさる業を始めから終りまで見極めることは許されていない」と書いている。神は人に「永遠を思う心」を与えて、創造したという。永遠を知る時、半分救われている。永遠を知らないと、地上での事柄が全てだと考える。そこでは、地上の何ものかを絶対視して、それに振り回される偶像礼拝が起こる。今日、偶像礼拝に陥り、他者を無残に否定する暴挙が至る所で見られる。永遠を知る時、地上の全てを相対的な、あるがままの意味と力を持つものと認識する。コヘレトの言葉は、人は永遠を思う心を与えられているが、「それでもなお、神のなさる業を始めから終りまで見極めることは許されていない」と人間の知識の限界を認めている。ここに、自己絶対化、何かを絶対視する過ちからの救いがある。

主イエスが天に上げられたという表現は神話的表現であるが、超越、永遠を指し示す言葉として重要である。超越、永遠を知る半分の救いから、主イエスの十字架と復活による罪の赦し、神からの是認宣言を「福音」として受け入れるところに全き救いがある。私たちはこの福音を信じ、生き、証し続けるのである。